

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成27年12月7日

計画の名称	1 にぎわいに満ちた中心核づくりと災害に強く安心して暮らせるまちづくり		
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度 (5年間)	交付対象	綾瀬市
計画の目標	<p>本市は市内に鉄道駅が無いため市外の駅に近い外縁部から市街化が進み、市の中央部が空洞化した都市形態となっている。 快適な住環境と高い利便性、機能性を備え、新市街地と旧市街地を連絡する幹線道路、地区幹線道路による道路ネットワークが構築された快適で魅力ある中心市街地の再生を目指すと同時に、災害に強いまちづくりの実現に向け、地域の災害に対する現状を明らかにし、市民による自主防災訓練、市民に対する啓発活動等により防災意識の高揚を図り、さらに地域防災リーダーの養成や支援により防災組織の強化を図ります。</p>		

計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> 中心核づくり満足度を 68% (H22) から70% (H26) に増加 綾瀬中央地区内の居住者数を 6,800人(H22)から8,000人(H26)に増加 地域防災リーダーの人数を 54人 (H22) から140人 (H26) に増加
----------------	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)	
住民アンケート調査による(中心核づくり満足度)	68%		70%	
建築戸数と平均世帯人数による人口増	6,800人		8,000人	
地域防災リーダーの人数増	54人		140人	

全体事業費	合計 (A + B + C)	1,044.4 百万円	A	861 百万円 (内提案分 54 百万円)	B	94.8 百万円	C	88.6 百万円	効果促進事業費の割合 (A (提案分) + C) / (A + B + C)	13.7%
-------	-------------------	-------------	---	--------------------------	---	----------	---	----------	---	-------

事後評価(中間評価)

事後評価(中間評価)の実施体制、実施時期	事後評価(中間評価)の実施時期
事後評価(中間評価)の実施体制	事業終了後 公表の方法 綾瀬市公式ホームページ
綾瀬市都市建設部都市政策課で実施	

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-A-1	都市再生	一般	綾瀬市	直接	綾瀬市	綾瀬中央地区都市再生整備計画事業	街路、道路、公園	綾瀬市						861	
合計													861		

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-B-1	道路	一般	綾瀬市	直接	綾瀬市	街路	電線類地中化	綾瀬市						94.8	
合計													94.8		

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考
1-B1-1	電線類地中化等により安全で快適な都市空間を創出する。											

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-C-1	社会実験	一般	綾瀬市	直接	綾瀬市	コミュニティバス試験運行	市内5ルート運行	綾瀬市						42	
1-C-2		一般	綾瀬市	間接	バス事業者	バス停留所上屋整備事業	上屋設置	綾瀬市						2.4	
1-C-3		一般	綾瀬市	直接	綾瀬市	遊歩道整備事業	遊歩道整備	綾瀬市						44.2	
合計													88.6		

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考
1-C-1	中央部への公共交通の移動利便性を向上することで市民の交流機会を増やし、中心核の活性化を図る。											
1-C-2	公共交通における待合施設のアメニティ向上を図り、中心核の魅力を高める。											
1-C-3	遊歩道を整備し、中心核周辺の回遊性を促進させ、中心核の活性化を図る。											

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

本事業の基幹事業である「綾瀬中央地区都市再生整備計画事業」の、区画整理事業地内においては、宅地増進が図られるのに併せて生活環境向上に寄与する、交通安全施設の設置や公園施設整備等による快適性・安全性の向上が図られ、また、区画整理事業周辺地区においても、道路新設や交通安全施設の設置等が行われ、利便性・安全性の高い道路環境の創出された。

定量的指標の達成状況	指標（住民アンケート調査による（中心核づくり満足度））	最終目標値	70%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	78%		
	指標（建築戸数と平均世帯人数による人口増）	最終目標値	8,000人	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	8,570人		
	指標（地域防災リーダーの人数増）	最終目標値	140人	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	141人		

定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況
(必要に応じて記述)

3. 特記事項（今後の方針等）

平成33年度末に区画整理事業が完了することから今後、更に宅地及び土地利用の増進が図られ、また、平成29年度末には（仮称）綾瀬スマートインターチェンジが出来ることにより人や物の流れが激変すると予想されます。

したがって、これらの状況の変化に対応できるよう様々な新たな施策を投入し解決策を講じて、今後も魅力のある中心市街地を構築していきます。

(参考図面) 市街地整備

